



2023年9月11日

各位

会社名 株式会社シャノン
 代表者名 代表取締役社長 中村 健一郎
 (コード: 3976 東証グロース)
 問合せ先 取締役 経営管理担当 友清 学
 (TEL. 03-6743-1551)

**子会社における損失(固定資産の減損損失)の計上及び
 2023年10月期通期連結累計期間の業績予想の修正に関するお知らせ**

当社は、2023年9月11日開催の取締役会において、2023年10月期において、下記の通り減損損失の計上及び2022年12月12日に開示した2023年10月期(2022年11月1日~2023年10月31日)の業績予想の修正を決定いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 特別損失(固定資産の減損損失)の計上の概要

当社は、当社の連結子会社である株式会社ジクウにおいて、2021年11月よりメタバースイベントプラットフォーム「ZIKU」の販売を開始し、約2年間経過しましたが、当初計画に対して事業進捗が遅れているため、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、現時点における収益見通しを慎重に検討した結果、固定資産(ソフトウェア資産及びソフトウェア仮勘定)の減損損失144百万円を特別損失に計上することといたしました。

2. 2023年10月期の連結業績予想値の修正

(1) 2023年10月期(2022年11月1日~2023年10月31日)の連結業績予想数値の修正

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 3,500	百万円 70	百万円 72	百万円 53	円 銭 18.06
今回修正予想(B)	2,958	△205	△216	△376	△122.86
増減額(B-A)	△542	△275	△288	△429	—
増減率(%)	△15.5	—	—	—	—
(参考)前期実績 (2022年10月期)	2,456	△327	△325	△365	△124.76

(2) 修正の理由

① 売上高の修正について

株式会社ジクウを主体として営んでいるメタバース事業において、商談単価の高い案件の受注を見込んでおりましたが、アフターコロナにおいて大型の展示会やプライベートショーについてはリアル開催

への回帰の動きが想定以上に強く、思い通りに受注をすることができなかったことを主因として、当初想定していた事業進捗を達成することができませんでした。一方で、採用イベントやビジネスマッチングイベント等、規模は大きくないものの当初想定していなかった活用シーンでの商機も生まれており、これらの状況を踏まえて事業戦略そのものを一度見直す必要がある状況となりました。なお、「事業計画及び成長可能性に関する事項」については、2024年10月期の計画を発表する本決算後（12月中）に更新を予定しております。

その他の事業においても前回予想をそれぞれ下回る見通しとなりました。

サブスクリプション事業については、サブスクリプション売上は新規契約獲得が前回予想に対して若干behindはしているものの概ね順調に推移する見通しではありますが、プロフェッショナル売上については、前回発表予想時に見込んでた大型案件の一部がその最終的な内容を踏まえてイベントクラウド事業に集計されることになったことや、サービス単価が想定よりも下落したこと等により減少する見通しとなりました。なおその他のものを含めて大型案件は順調に進捗しております。

イベントクラウド事業については、上述の通りプロフェッショナル売上から移行した売上があることを踏まえると、実質的な見通しは減少しております。これは競争環境下での受注単価の下落等が主要因となります。

広告事業については、大口顧客の予算減少の影響により減少する見通しとなりました。

(各セグメントの売上高予想)

	前回発表予想 百万円	今回修正予想 百万円	増減額 百万円	増減率 (%)
サブスクリプション事業	2,396	2,132	△264	△11.0
サブスクリプション	1,478	1,410	△68	△4.6
プロフェッショナル	918	722	△196	△21.4
イベントクラウド事業	526	548	22	4.2
メタバース事業	206	33	△173	△84.0
広告事業	372	245	△127	△34.1

②営業利益の修正について

(売上原価)

売上高の減少に伴い仕入等の変動原価も減少するため、前回予想よりも109百万円減少し、1,051百万円となる見通しであります。

(販売費及び一般管理費)

当初予想に対して、期中採用の抑制に伴う人件費や採用コストの減少や人員推移に併せたマーケティングコスト（広告宣伝費）の調整等により前回予想よりも158百万円減少し、2,112百万円となる見通しであります。

売上原価並びに販売費及び一般管理費については前回予想比で減少したものの、売上高の減少影響が大きく、営業利益は、前回予想よりも275百万円減少し、205百万円の営業損失となる見通しとなりました。

③経常利益の修正について

経常利益については、営業利益の差異の影響により、前回予想よりも288百万円減少し、216百万円の経常損失となる見通しとなりました。

④親会社株主に帰属する当期純利益の修正について

経常利益の減少とそれに伴う法人税等の減少及び「1. 特別損失（固定資産の減損損失）の計上の概要」に記載の固定資産の減損損失の計上により、前回予想よりも429百万円減少し、376百万円の純損失となる見通しとなりました。

3. 2023年10月期の個別業績予想の修正

(1) 2023年10月期(2022年11月1日~2023年10月31日)の個別業績予想数値の修正

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 3,120	百万円 51	百万円 41	百万円 13.97
今回修正予想(B)	2,784	△138	△139	△45.59
増減額(B-A)	△336	△189	△180	—
増減率(%)	△10.8	—	—	—
(参考)前期実績 (2022年10月期)	2,382	△232	△292	△99.64

(2) 修正の理由

今回の修正としましては、連結業績予想の修正と同様の理由(「1. 特別損失(固定資産の減損損失)の計上の概要」に記載の固定資産の減損損失の計上を除く)により、売上高、経常利益、当期純利益ともに前回予想値を下回ることとなりました。

以上